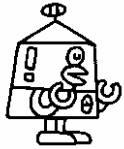


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
魚の卵の成長 / 理解シート

とう明な水よりにごった水の池に生物が多いのは、なぜなの



にごった池の水をけんび鏡でのぞくと、いろいろな形の生き物が見えるはずだよ。何もなければ、水はとう明さ。

とう明な湖は、生物がすめないわけがある

日本一とう明で有名な田沢湖は、1940年に発電所ができたとき、強い酸性の水が流れる玉川の水を入れるようになったため、生き物はすめなくなりました。

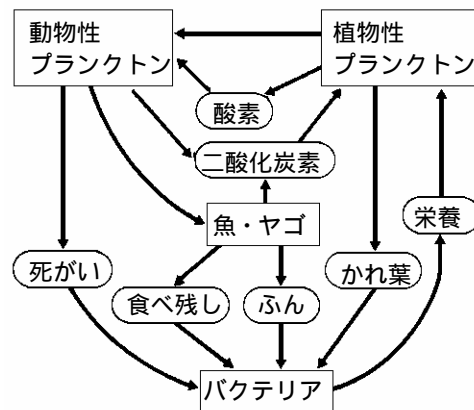
生き物がすめなければ、ふんや死がいで水がよごれることもなく、それらを食べたり栄養にするバクテリアや、小さな生き物も現れません。だから、水はいつまでもきれいでとう明なわけです。最近、強い酸性を中和して中性に近づける作業が行われるようになって、魚も少しすめるようになっていきます。

にごった水の中は、小さな生き物でいっぱい

にごった池の水をけんび鏡でのぞくと、いろいろな形の小さな生き物（プランクトン）がたくさん見えます。緑色のものは、植物のなかまに入る植物性プランクトンなどです。これらは、日光の助けをかりて水と二酸化炭素から栄養や酸素を作り、ふえていきます。

よく動く小さな生き物は、動物のなかまの動物性プランクトンで、ミジンコ、カニやエビ、貝などの子どもも、この中に入ります。

植物性プランクトンは動物性プランクトンのえさになり、動物性プランクトンは、魚などのえさになります。小さい魚は大型の魚や動物のえさになり、これらの動物のふんや死が、かれ葉などは、バクテリアが食べ（分解）て水中の栄養分にします。



池の中の生き物の関係